

# 通信小海

## 純潔教育を

牧師 水草修治

### 包括的性教育の失敗

性教育というと親はしりこみして、学校に  
お任せという場合が多いだろう。では学校で  
は、どんな価値観に立った性教育を行なって  
いるのだろうか。「国際家族計画連盟  
(IPPF)」という団体が世界規模で進めてい  
る性教育は「包括的性教育」と呼ばれ、日本の  
学校教育にも影響をおよぼしている。連盟の  
性教育の原則は次のとおり。

第一。若者たちは性的衝動を抑えることは  
出来ない。ゆえに、性行動を自制すること  
を教えるのでなく、性行動に伴う危険性を  
少なくすべきである。  
第二。子どもにも性交、同性愛、避妊、中  
絶を選択する権利がある。

### 「今月のみことば」

「光の子どもらしく歩みなさい。」

エペソ五八

第三・性病と妊娠を避けるため、避妊具を  
使うように勧める。

第四・伝統的な結婚と家庭の定義を改め  
て、同性愛など異常性愛をも認める。

このような原則にのっとった性教育が実  
際に米国で三十年間行なわれてきた。その結  
果、未婚の母が十パーセント増加し、十代の  
出産と中絶件数は六十七万二千件と三倍に  
なり、また十代の性病感染者は約三倍、子ど  
もの自殺率は四倍になった。十代の妊娠にと  
もなう福祉のために二兆一千億円ないし三  
兆円が支出されている。こうした傾向は米国  
だけでなく、「包括的性教育」を実施してき  
た北欧諸国でも同じである。包括的性教育は  
亡国の教育である。今、日本にも同じ波が押  
し寄せてきている。

さて、あなたは「包括的性教育」で自分の  
子どもを教育してほしいと願うだろうか。  
「包括的性教育」の背景には、人間を他の獣と

日本同盟基督教団 松原湖高原教会 牧師水草修治

牧師館 長野県南佐久郡小海町大字豊里一十六 一

〒三八四一一 三 二六七九一四七七六

郵便振替 五三 六一六八三

黄色い十字架 パロの五十メートル北

ヤナシヨウの向かい

## 集会あんない

日曜日

朝礼拝 午前十時から十一時

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日

聖書を読む会 午前十時半

祈り会 午後七時半

\*初めての方も歓迎します。

\*個人的相談にも乗ります。

同類とみなす進化思想があり、また絶対の真理などないと信じる相対主義がある。だから、オス猫が性的衝動にしたがつて好みのメス猫と交わるように、人間がその場その場の性的衝動にしたがつて好みの異性と交わつてなが悪いということになる。彼らの考えでは、結婚というものは人間が便宜上考へ出した制度にすぎない。進化論と相対主義にしたがえば、婚前交渉はおろか、姦通、売春は必ずしも悪いことではない。彼らにとって性道德というものは単なる便宜上の建前にすぎない。

ところが近年、三十年にわたる「包括的性教育」が誤っていたことを米国では認めた。包括的性教育による性道德の荒廃は家庭崩壊を招き、家庭崩壊は子どもの健全な成長を妨げ、犯罪が多発し、社会が腐乱し始めたからである。また、エイズの蔓延と、その救済のために莫大な費用がかかるという理由もある。米国は一九九五年から「純潔教育」のプログラムを実施し始め、結婚まで純潔を守ることのたいせつさを教えるようになった。その結果、十代の性

行動、妊娠、中絶率の劇的な減少という成果を見ることができるようになった。日本では

日本の知識人と呼ばれる人たちは、「婚前交渉をしてはいけない。」などと言つたら化石扱いにされるのではないかと恐れて、物分りのよい大人ぶっている。

が、筆者は、すでに欧米で三十年間にわたる壮大な実験で大失敗が実証された「包括的性教育」を、日本の教育現場にまで持ち込む愚を犯さぬようにと願う。すでに持ち込んでいるならば、ただちに改めるべきである。女子高生の売春など、米国社会に起こつたのと同じような社会崩壊が、すでに日本の中にも起こつてきているのに気づかない人はないだろう。親として

本来からいえば、性教育まで学校に期待してきたことがまちがっているのだろう。本来、子どもの躾や性教育は、親の責任であつて学校の責任ではない。親としては、

第一に、学校でどのような性教育がされているかを知る努力をすること、

第二に、子どもと率直に話をすること。

第三に、もし学校の教師が包括的性教育を勧めているとすれば、やめるように求めること。方針を変えないならば、その授業は受けさせなければよい。子どもの教育の権利と義務は親にある。(参考『ファミリーフォーカスジャパン』)

聖書は

結婚は人類の創造主である神がお定めになつた制度であつて、人間が便宜上作り出した制度ではない。だから、神を畏れつつ結婚をし、家庭を営むところに祝福がある。

神は夫婦の間においてのみ性的交わりを特権また義務としてお許しになつている。結婚前・婚約中は、どこまで許されるか。かつて私は牧師から「首から上までだよ」と指導された。

無制限の自由は放縦である。人は神のくださつた制限のなかでこそ、祝福ある自由を満喫して幸福を得ることがができる。

# 狭い門から入れ

狭い門から入りなさい。滅びにいたる門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入っていく者が多いのです。

いのちにいたる門は小さく、その道は狭く、それを見出す者はまれです。

マタイ福音書七章十三、十四節

狭き門といえは受験の難関校をさすことばとして用いられるが、主イエスが語られた本来の意味はまるで違っている。狭き門とは「いのちにいたる門」である。「いのち」とはなにか。聖書にいう「いのち」とは、神ともなる人生であり、罪による滅びから救われた人生であり、天国の人生である。

ところが、いのちにいたる門は小さく、その道は狭く、それを見出す者はまれである。神のいます天国に至る者はまれなのである。ほとんどの人は滅びに向かっている。

る。滅びとはなにか。それは「いのち」の反対。まことの神に背を向けた人生、罪によって神と断絶した人生、永遠の地獄にいたる人生である。

滅びにいたる門は大きく、その道は広く、そこから入っていく人が多い。滅びの門に入っていく人を山上の説教から拾い上げて見よう。滅びに至る人とは、自分を過信して神など要らぬと思っている人、自分の罪を悲しんでいない人、傲慢な人、開き直って罪に浸っている人、心の汚い人、争いを作る人、正しい事を言う人をいじめめる人、人前で見せるために善行をする人、地上に金を蓄えることにのみ熱心でそれを神と人とのために活用しない人、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、心配するばかりで神様のみこころに無関心な人、人に敵しく自分に甘い人などである。

滅びに至る門は大きくて、人々は行列をなして滅びへ滅びへと向かっている。主イエスはこれを見て嘆かれたのである。

では、いのちに至る門へと向かう人とはどんな生き方をしている人だろうか。自分の

無力を認めてまことの神に頼る人。自分の罪を悲しむ人、柔和な人、正義に飢えかわいている人、心の清い人、争いある所に平和を作る人、正しい事のために迫害されている人、人に見られるためでなく神様に喜ばれるために善行をなす人、お金を地上に蓄えるよりも神と人とのために惜しまず活用する人、天に宝を積む人、自分の欲でなく神様のみこころは何かとまず考える人、他人に甘く自分に敵しい人である。

「あの人は滅びに向かっている。」などと人のことを評論している場合ではない。あなたは、永遠の滅びに至る門に向かつて広い道を、歩いているだろうか。それとも、永遠のいのちに至る門に向かつて歩いているだろうか。

## 母は大地、父は天

「母親が木が根をおろす大地であつたとすれば、父親は樹冠がそこに向かつて伸びてゆくところの天である。」とスイスの医師テオドール・ボヴェーは言っています。

大地は木の根を囲み、守り、養分を供給するものですが、天はその木から超越した目標としてあります。木は天を指して伸びていくことで世界へと開かれていくのです。

長男が三歳になつたばかりのころ、おもしろいことがありました。「あ！電車に遅れそうだ。飛んでいかなくちや」と私が叫んだのを聞きつけて、息子は「おとうさんは空をとべるんだ。」と言つのです。家内と私はいたずら心を起こして、「うん。お父さんは飛べるんだよ。」と言つて飛ぶ格好をしてみせました。それから、しばらくの間、息子は私が空を飛べると思っていました。三歳児にとつて、父親はまるで全能者のように映るものです。

お父さんが言つことは絶対であり、お父さんはなんでもできると三歳児は思っています。だから、この時期は特に父親の指導的役割は非常に重要で有効です。

三歳から六歳は「第一の自立期」です。今まではただ親のいうままになんでもしていたのが、自分のうちに善悪の基準を形成して、その基準にのつとつて自分で決めて行動したいと思つようになります。それが親にはただ反抗しているように見えるので反抗期と呼ばれるのですが、実は自立をめざしてもがいているのです。

三歳児は、この内なる善悪の基準を作るためにいろいろ悪さもします。どこまでやるかと、コラ！と叱られるのが限界を見極めるために。だから限界にきた時、首尾一貫して叱つてやるのが大切。三歳児にとつて父はあなたも全能者なのですから、効き目があります。この時期にしつかりと、まことの神を畏れること、父母を敬つこと、殺すな、盗むな、人のものをやたらと欲しがらな、約束は守りなさいといったごく基本的なルールを教える。神は、父親をいわば代理に立てて子どもをしつさせせるのです。神は父親に子に対

する権威を与えておられます。権威ある指導を受けなかつた子どもは、心理的に内面的不安・劣等感そして反抗へと駆り立てられます。きちんと叱つてやらないと子どもは自己処罰をするようになります。その方法の一つは、わざわざ悪いことをして、親が自分を罰するようにしむけ、罰せられると満足するということ。叱るべきとき、しつかり叱ることが、子どもの良心の不安を取り除きます。

何らかの事情で父親がいない場合はどうするか。お母さん。大事なことは、その子の父親を決してけなしてはいけないということです。母親がその子が胸に抱く父親像を作るのです。すばらしい父親像を持つ子は健やかに育つことができます。

けれども、なによりのベストは聖書を開き子どもに正義と愛に満ちた天の父なる神様を教え、御前で、ともに祈ること、これをおいてほかにはありません。

「父たちよ。あなた方も、子どもをおこらせてはいけません。かえつて主の教育と訓戒によつて育てなさい。」エペソ六四